

大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 能動喫煙・受動喫煙とアレルギー疾患との関連

背景：喫煙がアレルギー疾患のリスク要因であるかどうかの結論は未だ得られておりません。特に、成人における研究はとても少ない状況です。さらに受動喫煙とアレルギー疾患との関連の疫学研究は、ほとんどありません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した 1002 名の妊婦さんを対象としました。18 歳以降のいずれかの時期に喘息の投薬治療を受けた場合を喘息有り、最近 1 年の間にアトピー性皮膚炎の投薬治療を受けた場合をアトピー性皮膚炎あり、最近 1 年の間にアレルギー性鼻炎（花粉症も含む）の投薬治療を受けた場合をアレルギー性鼻炎ありと定義しました。交絡因子として、年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の家族歴、屋内のペット、家計の年収、教育歴、寝具のダニ抗原量を補正しました。受動喫煙との関連では、非喫煙者（697 名）のみで解析しました。

結果：喘息は現在喫煙と有意な正の関連を示しましたが、受動喫煙とは関連を認めませんでした。アレルギー性鼻炎は、家庭内や職場での受動喫煙と有意な正の関連を示しましたが、能動喫煙とは関連を認めませんでした。アトピー性皮膚炎は、能動喫煙、受動喫煙とも有意な関連は認めませんでした。

表：喫煙状況とアレルギー疾患との関連（非喫煙群に対する喫煙群のオッズ比）

	全体の有症率	能動喫煙との関連	受動喫煙との関連
18 歳以降喘息	4.7%	2.66 (1.30-5.38)	1.90 (0.65-6.32)
アトピー性皮膚炎	5.7%	0.41 (0.14-1.03)	2.02 (0.95-4.49)
アレルギー性鼻炎	14.1%	0.98 (0.57-1.62)	1.89 (1.10-3.30)

結論：日本人の妊婦さんにおいて、能動喫煙と受動喫煙が、それぞれ喘息とアレルギー性鼻炎の有症率と正の関連があることが確認されました。

出典： Miyake Y, Miyamoto S, Ohya Y, Sasaki S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H; Osaka Maternal and Child Health Study Group. Association of active and passive smoking with allergic disorders in pregnant Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Ann Allergy Asthma Immunol.* 2005; 94: 644-651.